

2013年11月～2028年3月に当院入院患者および入院履歴を有する患者のうち、
転倒・転落アセスメントシートによる評価を受けた方、当院入院中に転倒・転落された方へ

研究 院内における転倒の実態調査 の実施について

1. 本研究の目的および方法

目的： 社会全体の高齢化に伴い、自宅や病院での転倒・転落は後を絶ちません。我が国の年間転倒の発生率は、在宅高齢者では約 10～25%、施設入居者では約 10～50%と報告されております。転倒・転落は、骨折、頭部外傷、打撲、擦り傷等を引き起こし、日常生活動作や生活の質の低下を招き、場合により命に関わることもあります。病院に入院中の患者様では特に、病気や臥床の影響等により、転倒・転落・骨折の危険性が高い状態にあります。本研究の目的は、当大学病院内での転倒・転落の状況を分析し、転倒・転落しやすい要因を検索することであり、病院内での転倒・転落予防に繋げることです。

対象者： 2013年12月～2028年3月に当院入院患者および入院履歴を有する患者のうち、当院入院中に転倒・転落に関するインシデントレポートに報告された方。また、同期間中に転倒・転落アセスメントシートによる評価を受けた方。

方法： インシデントレポート(入院患者様の転倒・転落に限る)の解析を行い、病院内での転倒・転落の状況を分析します。インシデントレポートにより得られた転倒・転落患者様に関して、当院電子カルテから得られる情報(診療記録・リハビリテーション記録・画像・検査結果など)を調査します。また、転倒・転落アセスメントシートの解析を行い、転倒・転落を生じた患者様と、転倒・転落を生じなかった患者様を比較検討し、転倒・転落の危険因子を調査します。

本研究は、倫理審査委員会の承認を得て実施しています。

2. 研究に用いる試料・情報の種類および保管方法について

研究に用いられる試料・情報： インシデントレポートおよび電子カルテより転倒・転落の状況の抽出、転倒・転落アセスメントシートによる評価、電子カルテから得られる診療記録・リハビリテーション記録・画像・検査結果など。

保管方法： 本研究で得られた結果は、リハビリテーション部・教授 松浦哲也が管理し、研究の中止または終了後3年の間、リハビリテーション部の施錠できる書庫にて保管します。研究の中止または終了後3年経過後に、データを削除するものとします。

3. 研究結果の公表について

プライバシーは守られます。本研究で得られたデータは、本研究の目的にのみ使用します。また、本研究結果を学会や論文に発表させて頂く場合がありますが、この際も個人が同定されるような情報の公開はありません。

4. 研究資金および利益相反管理について

本研究における特別な研究資金はありません。本研究は、本院の研究費のみを使用して実施されます。本研究の利害関係については、臨床研究利益相反審査委員会の審査を受け、承認を得ております。

5. 本研究への参加に同意しない場合

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

6. 研究責任者および連絡(問合せ)先

【研究機関】 徳島大学病院

【研究責任者】

徳島大学病院リハビリテーション部・特任講師・佐藤紀

【連絡先】

徳島大学病院リハビリテーション部・特任講師・佐藤紀

〒770-8503 徳島市蔵本町2丁目50-1 電話：(088) 633-9313

本研究への参加に同意しない場合は、連絡先までご連絡下さい。